

2026年度 通信教育実施計画

| 教科     | 理科                                                                     | 科目名   | 生物    | 単位数    | 4 単位          |
|--------|------------------------------------------------------------------------|-------|-------|--------|---------------|
| 教育目標   | 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |       |       |        |               |
| スクーリング | 16 時間                                                                  | 合格時間数 | 16 時間 | 教科書名   | 東京書籍 スタンダード生物 |
| レポート   | 12 通                                                                   | 合格通数  | 12 通  | 副教材名   | なし            |
| メディア学習 | 12 通                                                                   | 合格通数  | 12 通  | その他教材  | なし            |
| 評価     | 5段階評価、観点別評価の実施                                                         |       |       | 単位認定試験 | 9月・2月         |

|     | 単元・指導項目                                                                          | 指導内容                                                                                          | スクーリング | レポート     | メディア学習 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------|--------|
| 4月  | 第1編 生命現象と物質<br>第1章 生体物質と細胞 第2章 生命現象を支えるタンパク質<br>第3章 代謝とエネルギー                     | 細胞の構造や生命現象を支えるタンパク質の働きについて学習する。また、呼吸や光合成を中心に、代謝反応の流れやしきみについて学習する。                             | 前期 8 回 | No.1,2   |        |
| 5月  | 第2編 遺伝子のはたらき<br>第1章 DNAの構造と複製<br>第2章 遺伝情報の発現                                     | 遺伝子のはたらきを担うDNAや遺伝情報が変化することによって合成されたタンパク質がどのようなしきみで合成されるか学習する。                                 |        |          |        |
| 6月  | 第2編 遺伝子のはたらき<br>第3章 遺伝子発現の調節<br>第4章 バイオテクノロジー                                    | 遺伝子を細胞内に導入するバイオテクノロジー技術の実用化について安全性や倫理性さらにこれからの社会課題など多角的な視点から考えて学習する。                          |        | No.3,4   |        |
| 7月  | 第3編 生殖と発生 第1章 多様な個体が生じる有性生殖<br>第2章 動物の発生 第3章 動物の発生のしきみ<br>第4章 植物の発生              | 生物が遺伝的に多様な個体を生じさせる過程や生物が1個の細胞から生体になる働きを動物と植物で比較しながら学習する。                                      |        | No.5,6   |        |
| 8月  | 復習                                                                               | 前期の学習内容の復習を行い、不足部分を補う。                                                                        |        |          |        |
| 9月  | 復習                                                                               | 前期の学習内容の復習を行い、不足部分を補う。                                                                        |        |          |        |
| 10月 | 第4編 生物の環境応答<br>第1章 動物の刺激の需要と反応<br>第2章 動物の行動 第3章 植物の環境応答                          | 生物における行動とは、光や音などの刺激に対して情報を処理し反応しているが、生物を含む環境に対して生物がどのように反応したり行動するのか、動物と植物から比較して学習する。          | 後期 8 回 | No.7,8   |        |
| 11月 | 第5編 生態と環境 第1章生物の多様性と生態学<br>第2章個体群と生物群集<br>第3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ<br>第4章 生態系と生物多様性 | 生態学とはどのような学問で、どのようなことが明らかになるのか、生態学の中にある生物同士の群れがどのような相互作用が起こる、また移動能力を持たない植物が及ぼす環境の変化についても学ぶ。   |        |          |        |
| 12月 | 第6編 生命の起源と生物の変遷<br>第1章 進化のしきみ 第3章 生物の系統                                          | 地球上に存在する多種多様な生物は、どのようにして誕生し、どのようなしきみで進化して変化していったのだろうか。さまざまな変化をして進化した生物にはどのような系統関係があるのか学習していく。 |        | No.11,12 |        |
| 1月  | 復習                                                                               | 後期の学習内容の復習を行い、不足部分を補う。                                                                        |        |          |        |
| 2月  | 復習                                                                               | 後期の学習内容の復習を行い、不足部分を補う。                                                                        |        |          |        |